

答え

C. 3個

1月1日号の新春恒例クイズにご応募いただいた皆様、ありがとうございました。今年の応募総数は153通。クイズの正解者の中から抽選を行い、当選された方には、1等(1人)2千円分、2等(2人)2千円分、3等(20人)500円分の商品券を贈呈します。なお、当選者の発表は商品券の発送をもってかえさせていただきます。

トピックス  
**TOPICS4**  
お年玉クイズ  
正解発表



**市報への感想等を紹介します**

お年玉クイズの「市報への感想・取り上げてほしい事」に、たくさんのご意見が寄せられました。主なものを紹介します。

- ・子育て、空き家、売地情報
- ・市民が銀山を知る企画
- ・商店街
- ・尾花沢の隠れた絶景、名所、お宝、人
- ・5地区(福原、宮沢、常盤、玉野、尾花沢)のコーナー
- ・出前券が良かった。市内で使えるお得なクーポン券
- ・まちがいさがしやクイズが時々あると楽しい
- ・子どもが楽しめるもの
- ・若い人が興味を示す内容
- ・年齢がいつても見やすくわかりやすい市報にしてほしい
- ・たばこの害
- ・市内で活躍している会社や経営者
- ・市の課題を載せて、市民が意見を出力し考えのコーナー
- ・雪下ろし業者及び混み具合

いただいたご意見を参考に、今後もより良い紙面づくりに努めていきます。貴重なご意見ありがとうございました！

「春は名のみ 風の寒さや」暦の上では立春を迎えたものの、早春賦の歌い出しのような2月の尾花沢です。

今冬は大雪に見舞われ、市内では雪による痛ましい事故も多数発生しております。そこで、自力での除雪が困難な高齢者世帯を支援するため、先月19日に3年ぶりとなる「豪雪除雪隊」が結成されました。市内各団体等からボランティアを募り96人の方々にご協力を得て、11軒のお宅の除排雪作業をしていただきました。ご参加いただいた皆様にご心からお礼申し上げます。除雪隊のお力で雪が片付いたお家の方からは感謝の言葉が寄せられました。雪は生活する上で大変な厄介者ですが、市民が共に助け合い、お互いを気遣う共助のきっかけにもなるものと感じております。

また、雪の尾花沢を存分に楽しむためのイベントも計画されております。昨年は雪不足で「尾花沢雪まつり」徳良湖 WINTER JAM」を開催することが叶いませんでした。今年は新型コロナウイルス感染症の対策を講じながら、徳良湖、花笠高原スキー場、道の駅尾花沢「花笠の里ねまる」、産直館はいつも、そして商店街において2月27日から28日にかけて分散して催し物が開催されます。冬の夜空を彩る花火も打ち上げる予定です。ぜひ、市内の各イベント会場に足を運んでいただければと思います。厳しい雪の季節もあと少し。引き続きあたたかい気持ちで助け合いながら、春の訪れを待ちたいと思います。

**尾花沢市長 菅根 茂雄**

**市長コラム**

トピックス  
**TOPICS3**  
地域とつながる市内企業  
取り組み紹介

市内の各事業所では、自社発展の努力はもちろん、様々な場面で地域への貢献活動も行っています。今回は、市内事業所で行っている地域活動への取り組みを3つ紹介します。

**「地域未来牽引企業」に選定**



▲「今後も楽しみながら仕事ができる環境づくりをしていきたい」と意欲を見せる株式会社山陽精機山形工場の森製造本部長(写真中央)と、鎌田工場長(写真左)。

地域経済の中心的な担い手となる事業者を経済産業省が選定する「地域未来牽引企業」に、株式会社山陽精機が認定されました。本市では、オプテックス工業(株)、最上世紀に次いで3社目です。

株式会社山陽精機は、地元少年野球大会の開催や徳良湖周辺のゴミ拾いボランティアに長年参加するなど「地域と共に伸び行く企業」を目指しています。従業員の畑維持のために立ち上げた農業部門では16ha程の水田を耕作し、地元小学生の農作業体験や収穫祭も行っています。今後も行政や関係機関と連携しながら企業と地域とを繋ぎ、地域経済活性化のリーダーとして活躍されることを期待します。

**大山精機に地域づくりの新拠点「尾花沢サテライト」開設**



▲工業・農業・観光業など異業種の人たちが集まれば、様々な視点から「尾花沢を良くする」面白いアイデアが出てくると考えた大山専務(写真中央)。今後の展開に期待が膨らみます。

鶴巻田区内で金属加工業を行っている大山精機の大山真吾専務が、尾花沢の地域活性化につなげたいとの思いから、在学している山形大学大学院のMOT(ものづくり技術経営学)の先生に働きかけ、自社内に山形大学地域価値創成学研究所「尾花沢サテライト」を開設しました。観光業や農業など異業種の若手11人が集い、1月13日〜27日までの3回に渡り、「イノベーション創出思考法」についてオンライン授業を受講。固定概念にとらわれない新たなニーズ発掘の手法を学びました。一企業の枠を飛び越えて始動した地域づくりの新拠点から、どんなアイデアが生まれるか今後が楽しみです。

**北村山高校×地元企業経営者と語る会**



▲市内4事業所の経営者から話を聞き、意見交換を行った北村山高校2年生の生徒たち。地元企業を知る貴重な機会になりました。

企業懇談会では、北村山高校と連携して企業見学会や企業体験など、高校生の地元就職支援に取り組んでいます。

1月21日は、就職を希望する2年生約30人を対象に、オプテックス工業(株)、大地物流、(株)成和技術、(株)泉デザイン工房の代表らが講師となり「働くことの意味と心構え」をテーマに意見交換を行いました。

参加した生徒からは、「自分自身を知る大切さを学んだ」、「情報を自ら取りに行く大切さを知った」、「失敗を活かして成功するまでチャレンジしていきたい」、「地元企業を知る機会になった」などの感想が聞かれました。